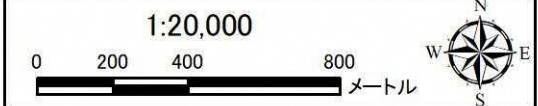


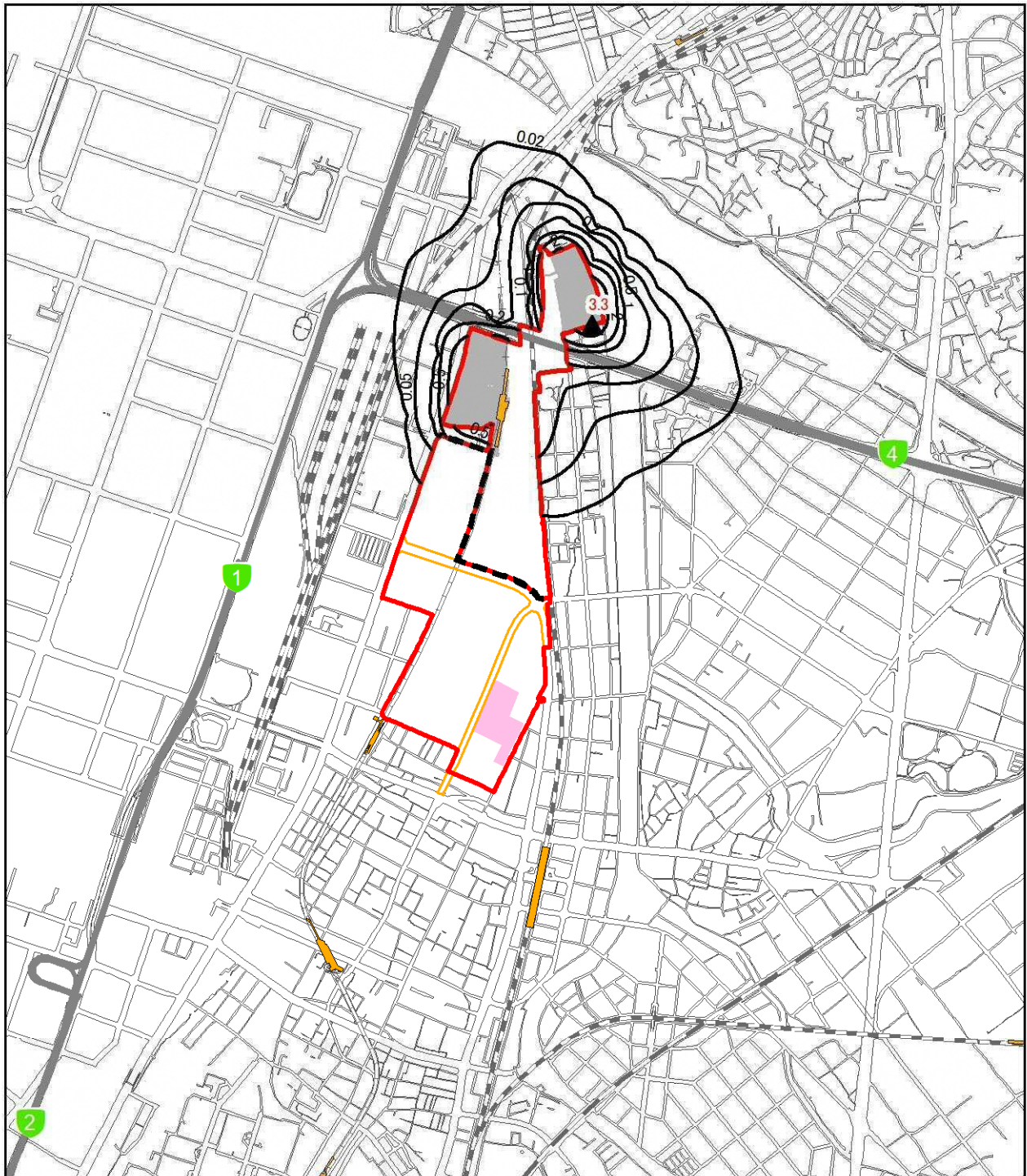
凡 例

- | | |
|--------------|------------|
| 事業実施区域 | 近代建築物活用ゾーン |
| 北エリア・南エリア境界 | 施工区域 |
| 福岡都市高速 | 2026年度 |
| 都市計画道路(関連事業) | |
| 駅 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 — 2026年度二酸化窒素濃度(ppb)
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※1ppb=0.001ppm)
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-8(7)工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果(年平均値): 2026年度



凡例

■ 事業実施区域

— 北エリア・南エリア境界 施工区域

— 福岡都市高速
— 都市計画道路(関連事業)

■ 駅

— JR

— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄

工区割り

■ 近代建築物活用ゾーン

■ 2027年度

1:20,000

0 200 400 800 メートル



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)

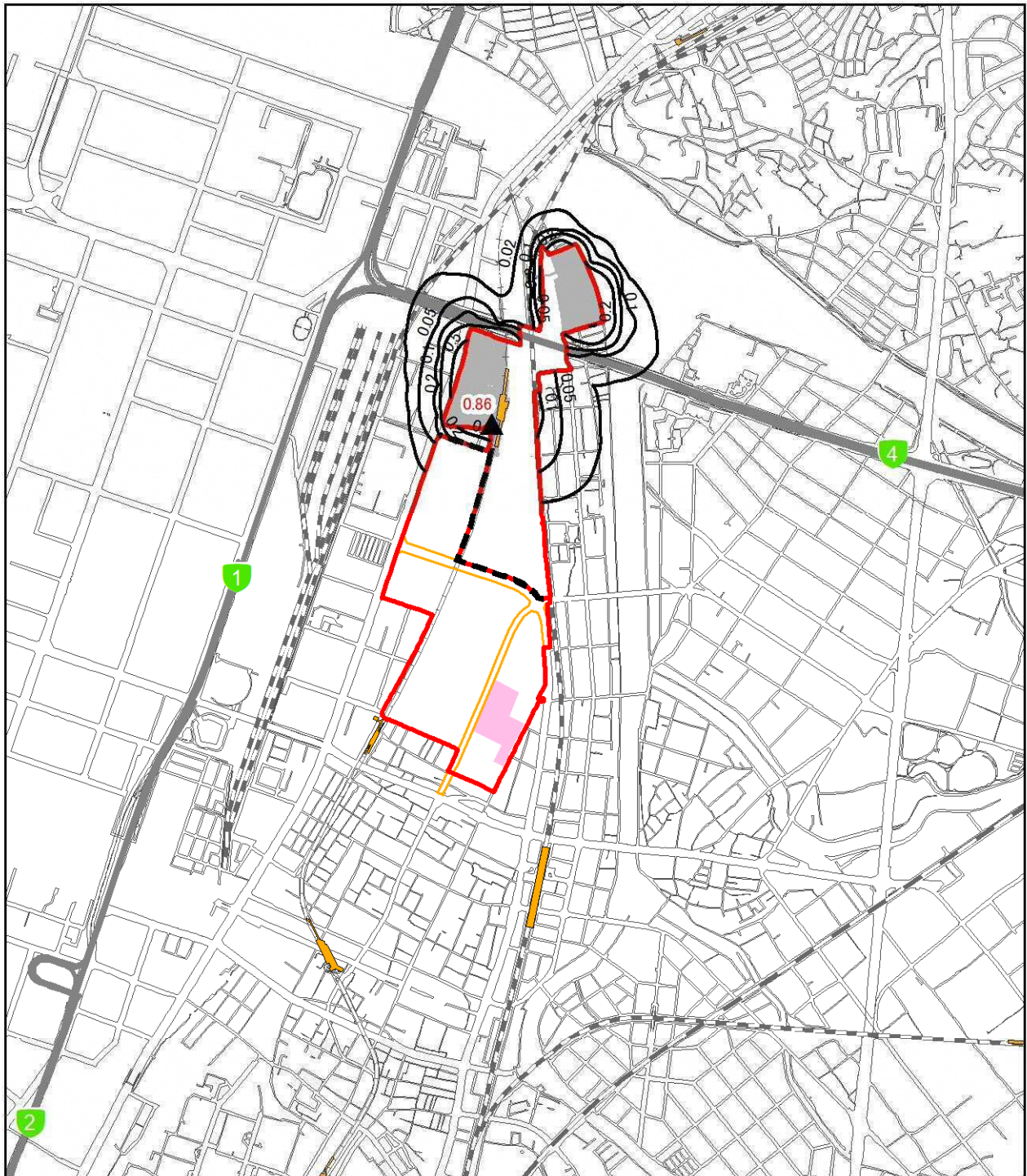
— 2027年度二酸化窒素濃度(ppb)

数値は、建設機械稼働分の濃度である。

(※1ppb=0.001ppm)

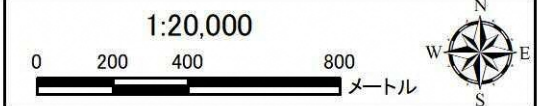
バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-8(8) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果(年平均値): 2027年度



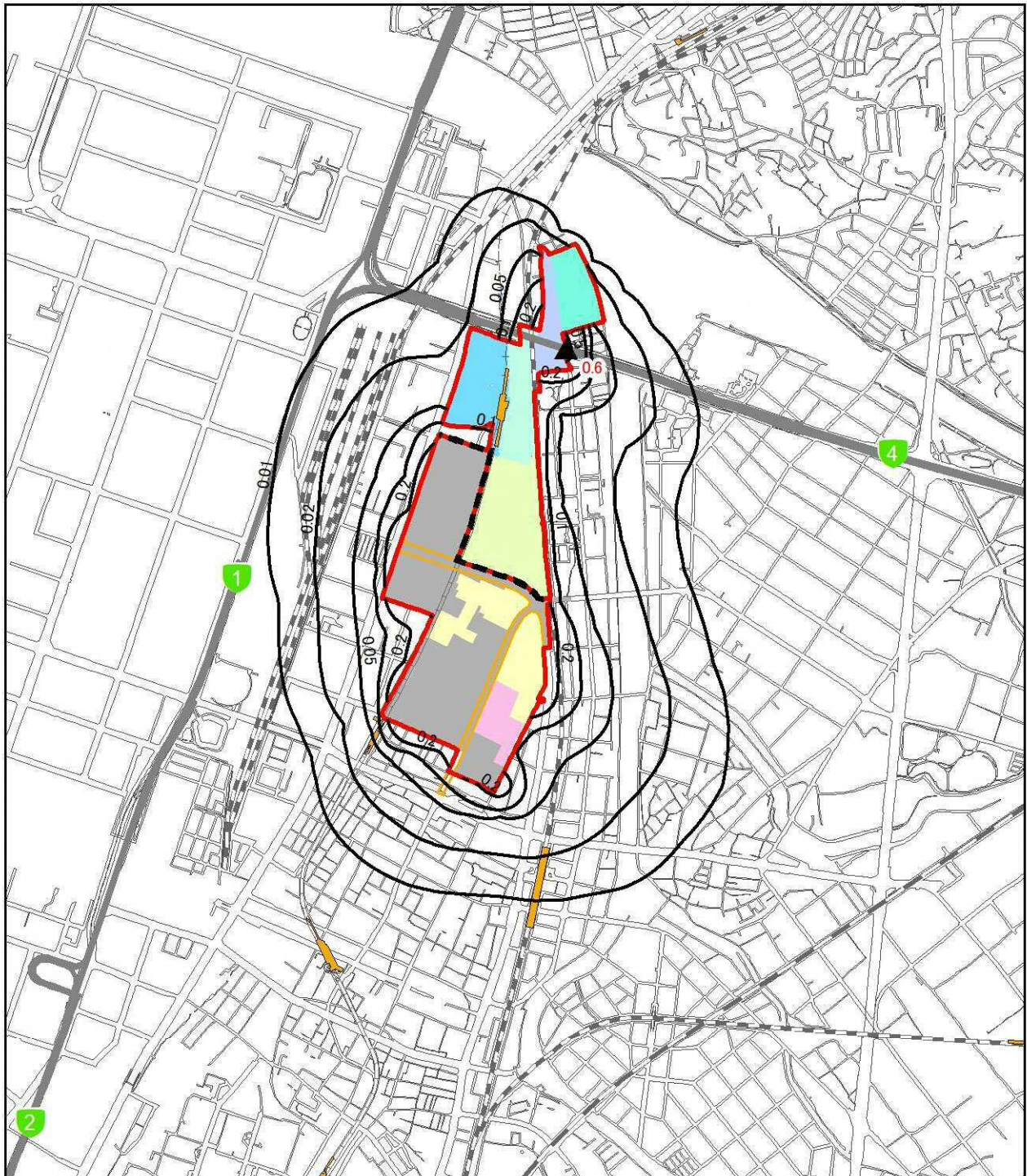
凡例

- | | |
|--------------|------------|
| 事業実施区域 | 近代建築物活用ゾーン |
| 北エリア・南エリア境界 | 2028年度 |
| 福岡都市高速 | 施工区域 |
| 都市計画道路(関連事業) | |
| 駅 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 — 2028年度二酸化窒素濃度(ppb)
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※1ppb=0.001ppm)
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-8(9) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果(年平均値): 2028年度



凡例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 都市計画道路(関連事業)
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

工区割り

- 北1工区
- 北2工区
- 北3工区
- 北4工区
- 北5工区
- 南3工区
- 近代建築物活用ゾーン

施工区域

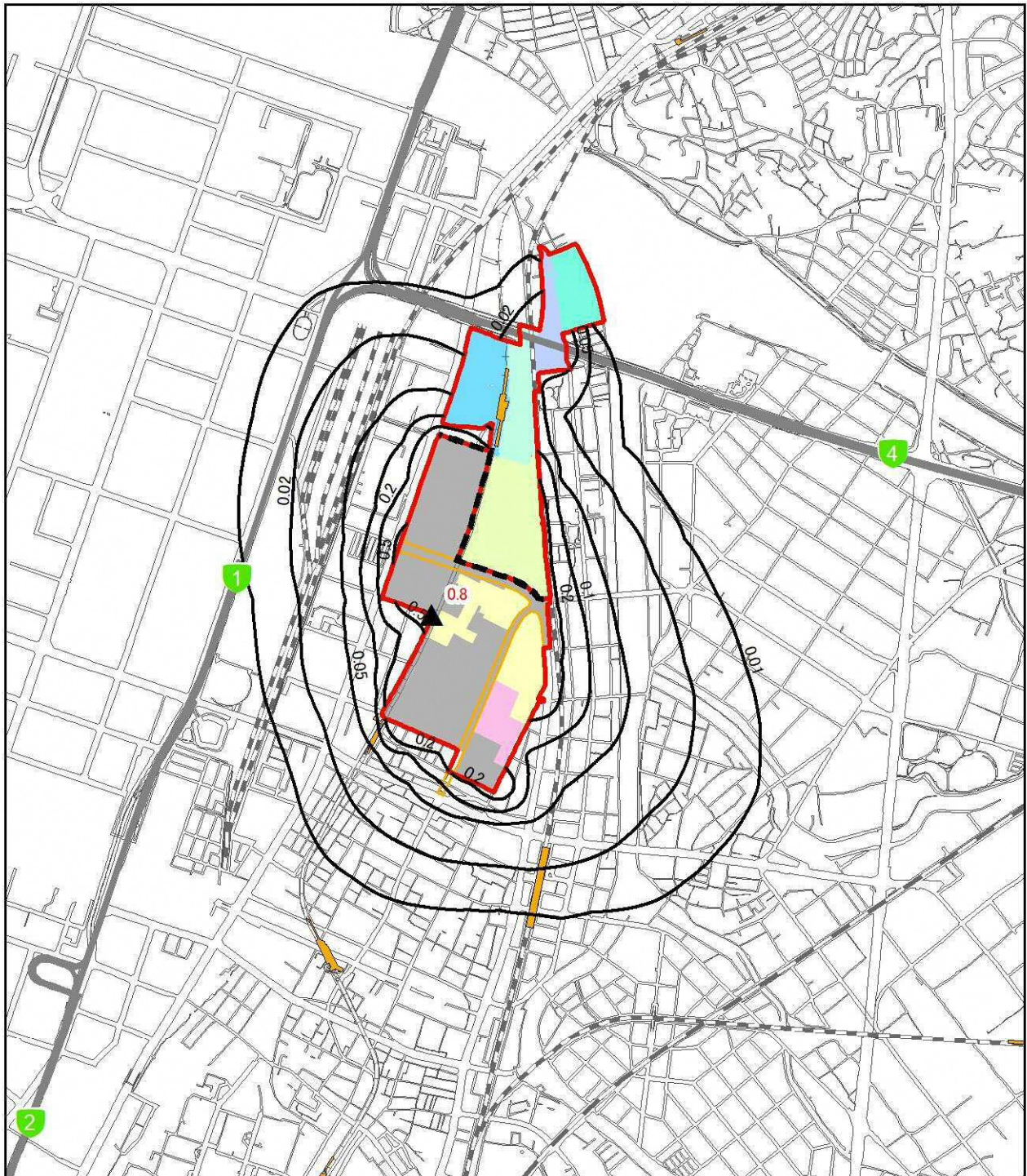
- 2020年度
- その他、北1~3工区、南1~3工区で関連事業実施中。

1:20,000



- ▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
- 2020年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
- 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
(※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
- バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(10)工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2020年度



凡 例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 都市計画道路(関連事業)
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

工区割り

- 北1工区
- 北2工区
- 北3工区
- 北4工区
- 北5工区
- 南3工区
- 近代建築物活用ゾーン

施工区域

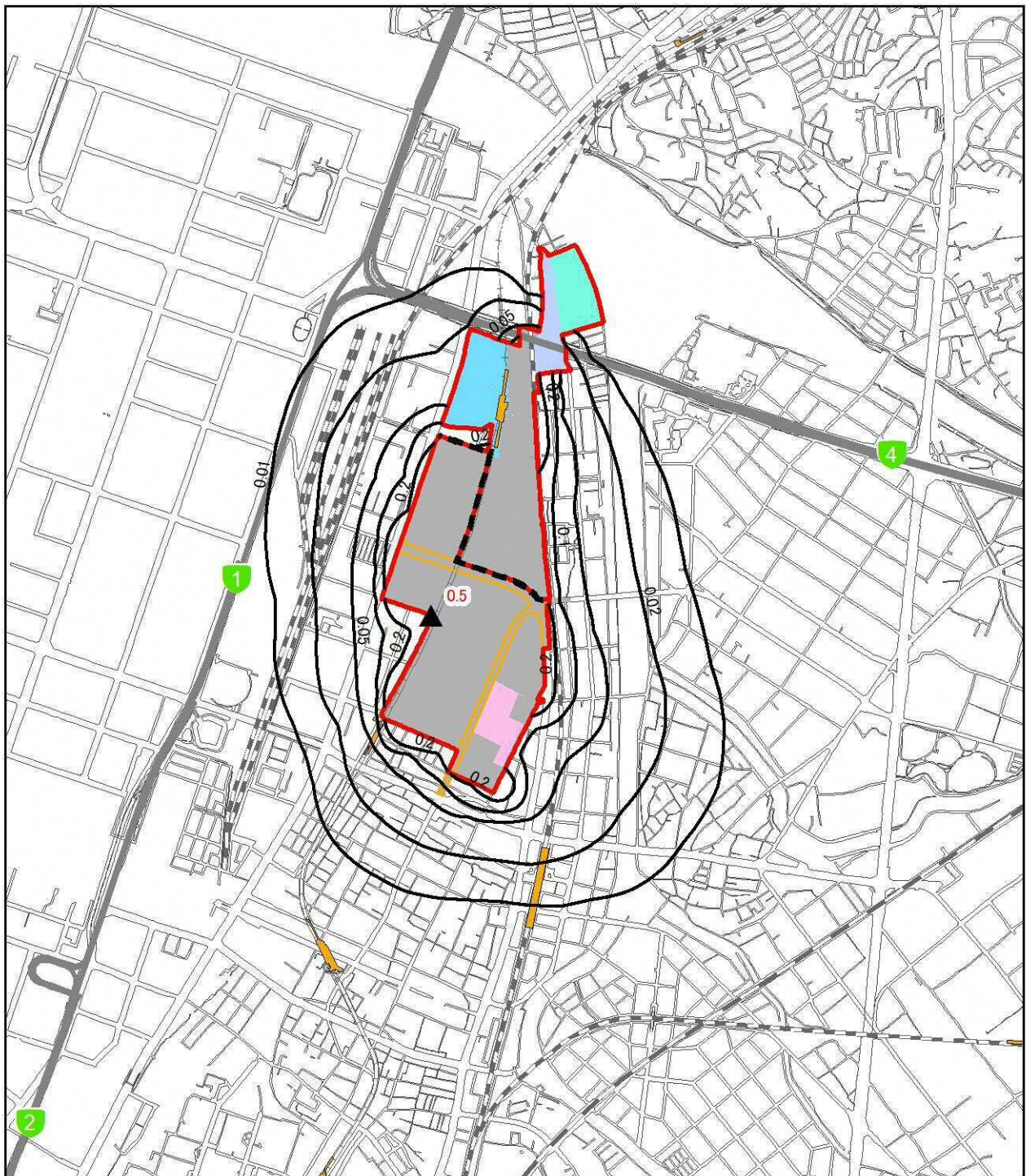
- 2021年度
- その他、北1~3工区、南1~3工区で関連事業実施中。

1:20,000



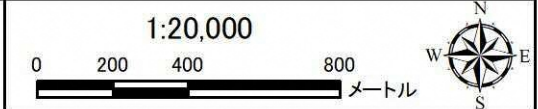
- ▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
- 2021年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
- 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
(※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
- バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(11) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2021年度



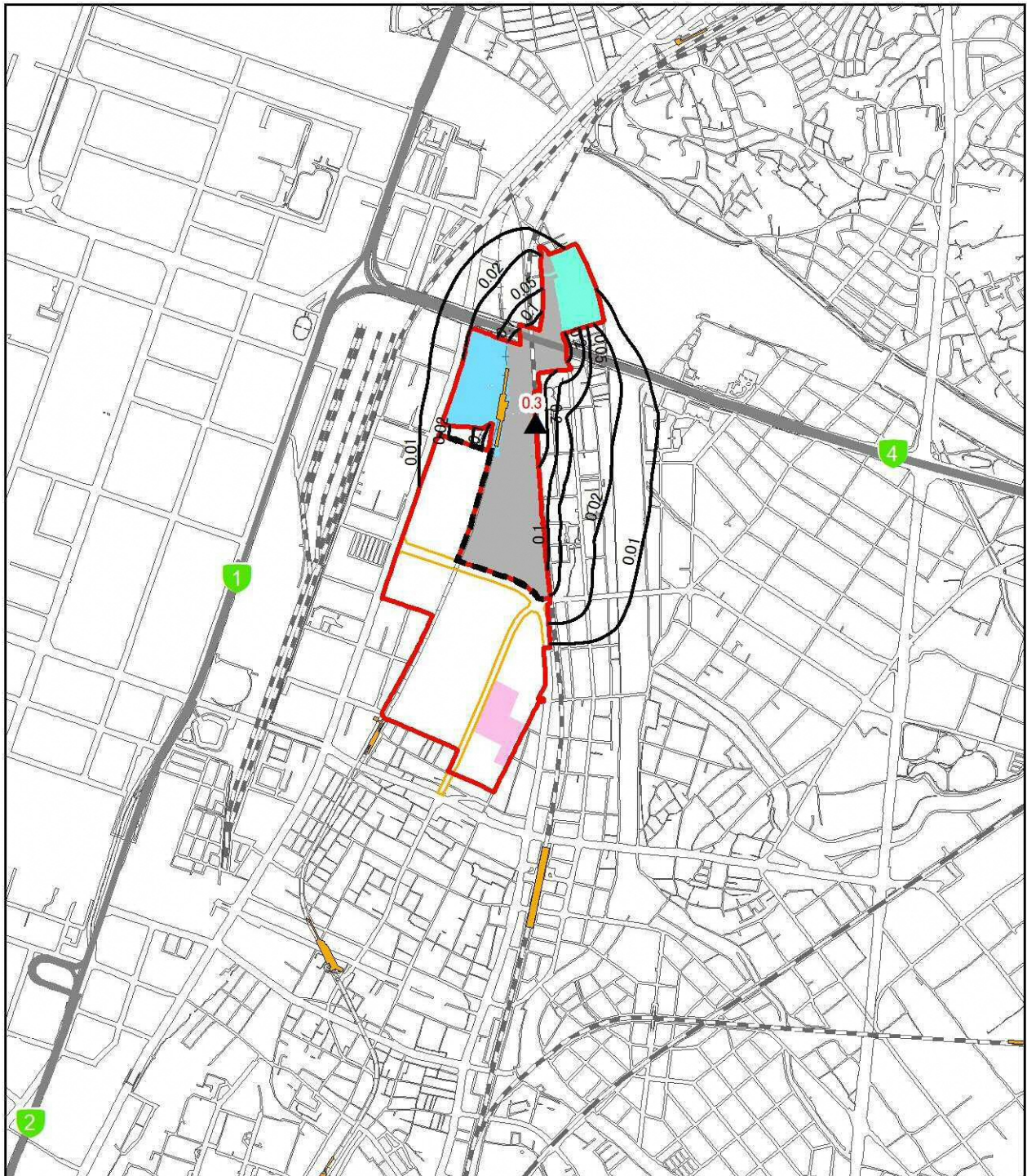
凡 例

- | | |
|--------------|-------------|
| 事業実施区域 | 北3工区 |
| 北エリア・南エリア境界 | 北4工区 |
| 福岡都市高速 | 北5工区 |
| 都市計画道路(関連事業) | 近代建築物活用ゾーン |
| 駅 | 施工区域 |
| JR | 2022年度 |
| 新幹線 | その他、 |
| 私鉄 | 南1~3工区で |
| 地下鉄 | 関連事業実施中。 |



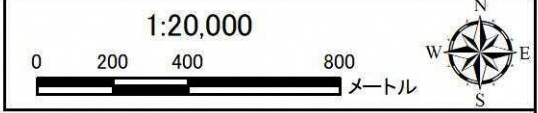
▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 2022年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
 バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(12) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2022年度



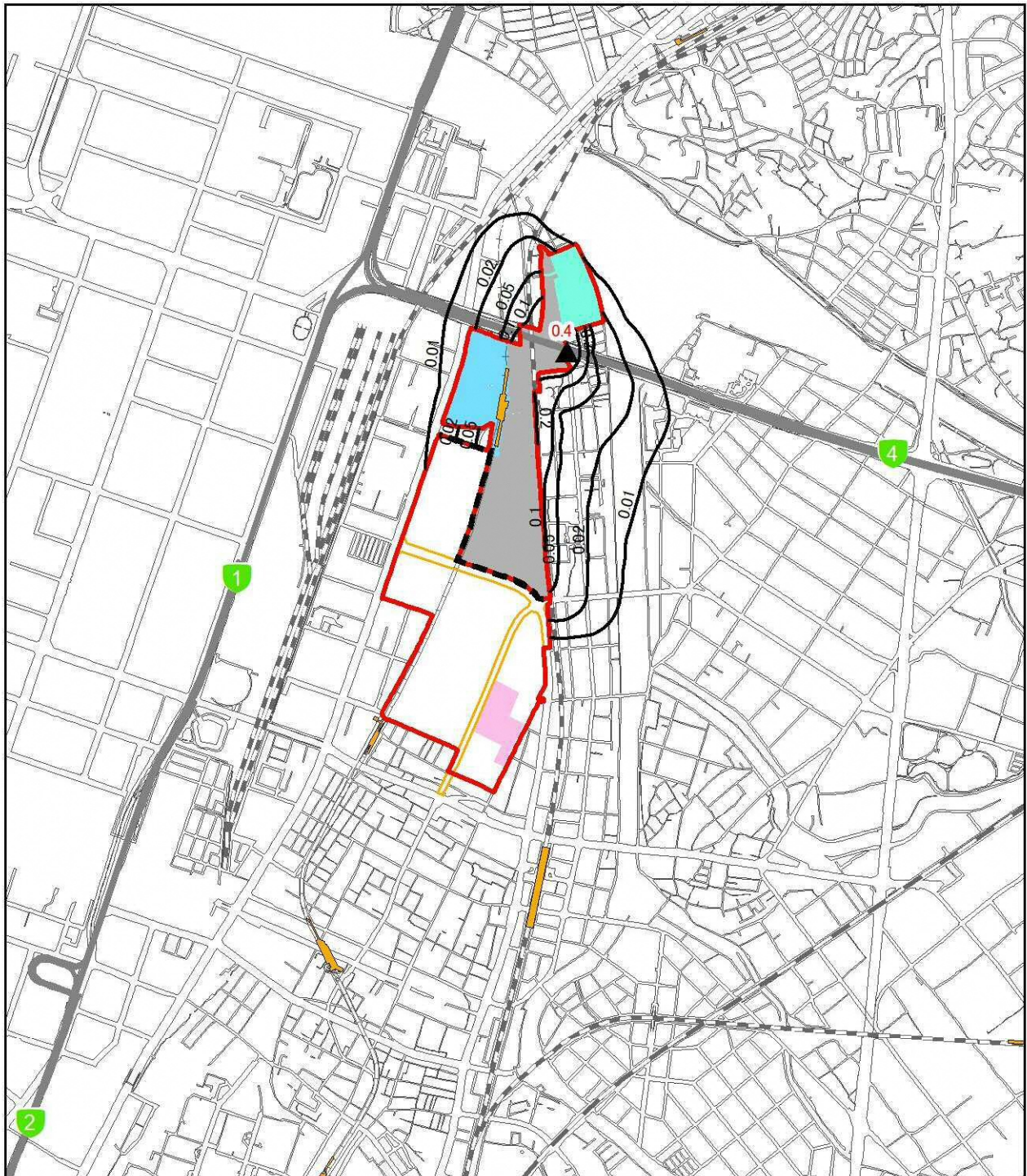
凡 例

- | | |
|------------------|------------|
| 事業実施区域 | 北4工区 |
| 北エリア・南エリア境界 | 北5工区 |
| 福岡都市高速 | 近代建築物活用ゾーン |
| 都市計画道路(関連事業施工区域) | 2023年度 |
| 駅 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |



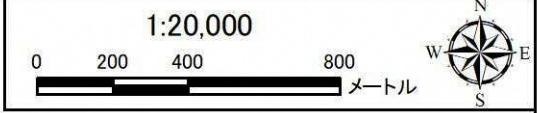
- 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 - 2023年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
- 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
 バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(13) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2023年度



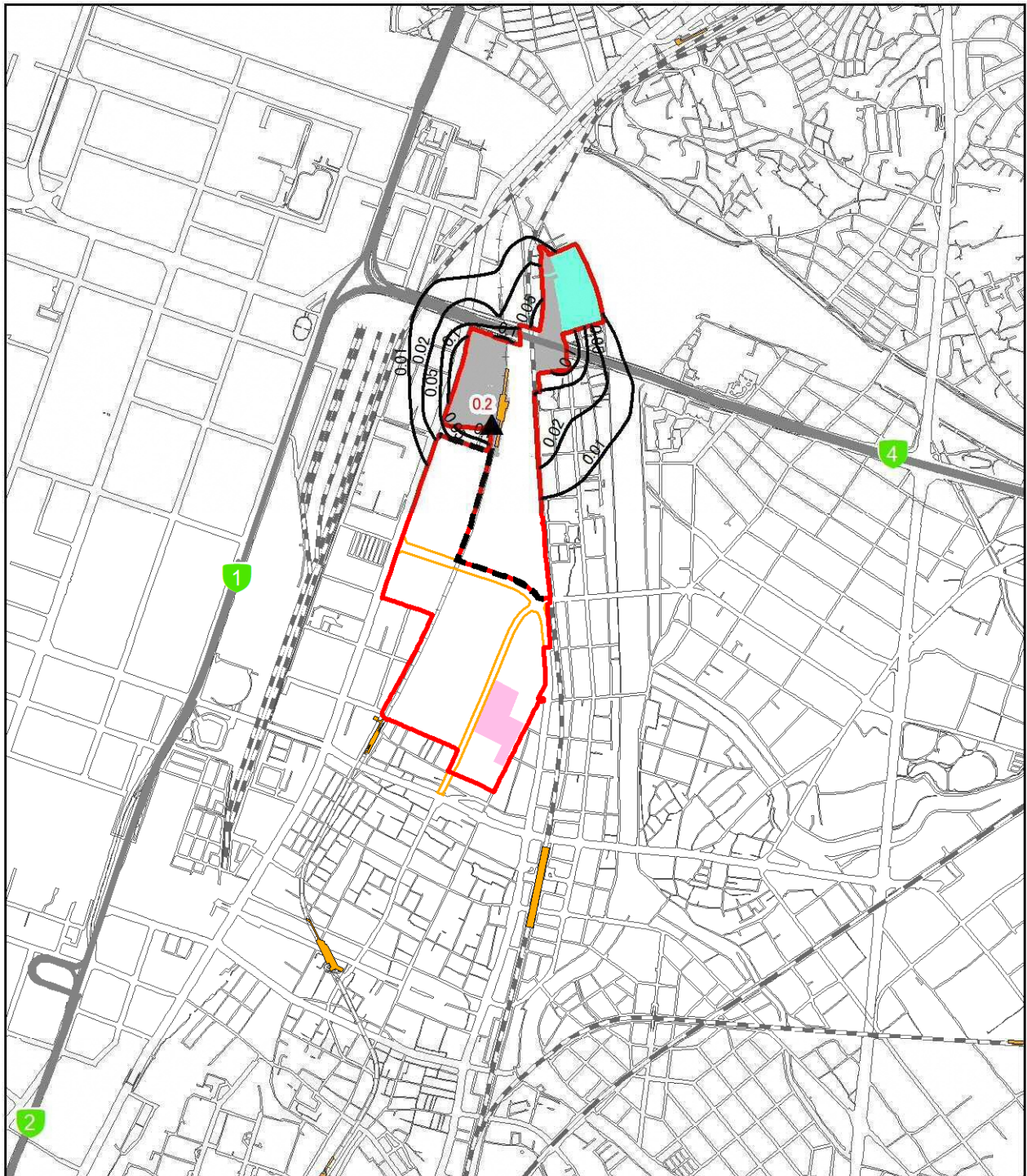
凡 例

- | | |
|------------------|------------|
| 事業実施区域 | 北4工区 |
| 北エリア・南エリア境界 | 北5工区 |
| 福岡都市高速 | 近代建築物活用ゾーン |
| 都市計画道路(関連事業)施工区域 | 2024年度 |
| 駅 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |



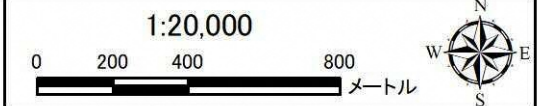
▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 — 2024年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
 バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(14) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2024年度



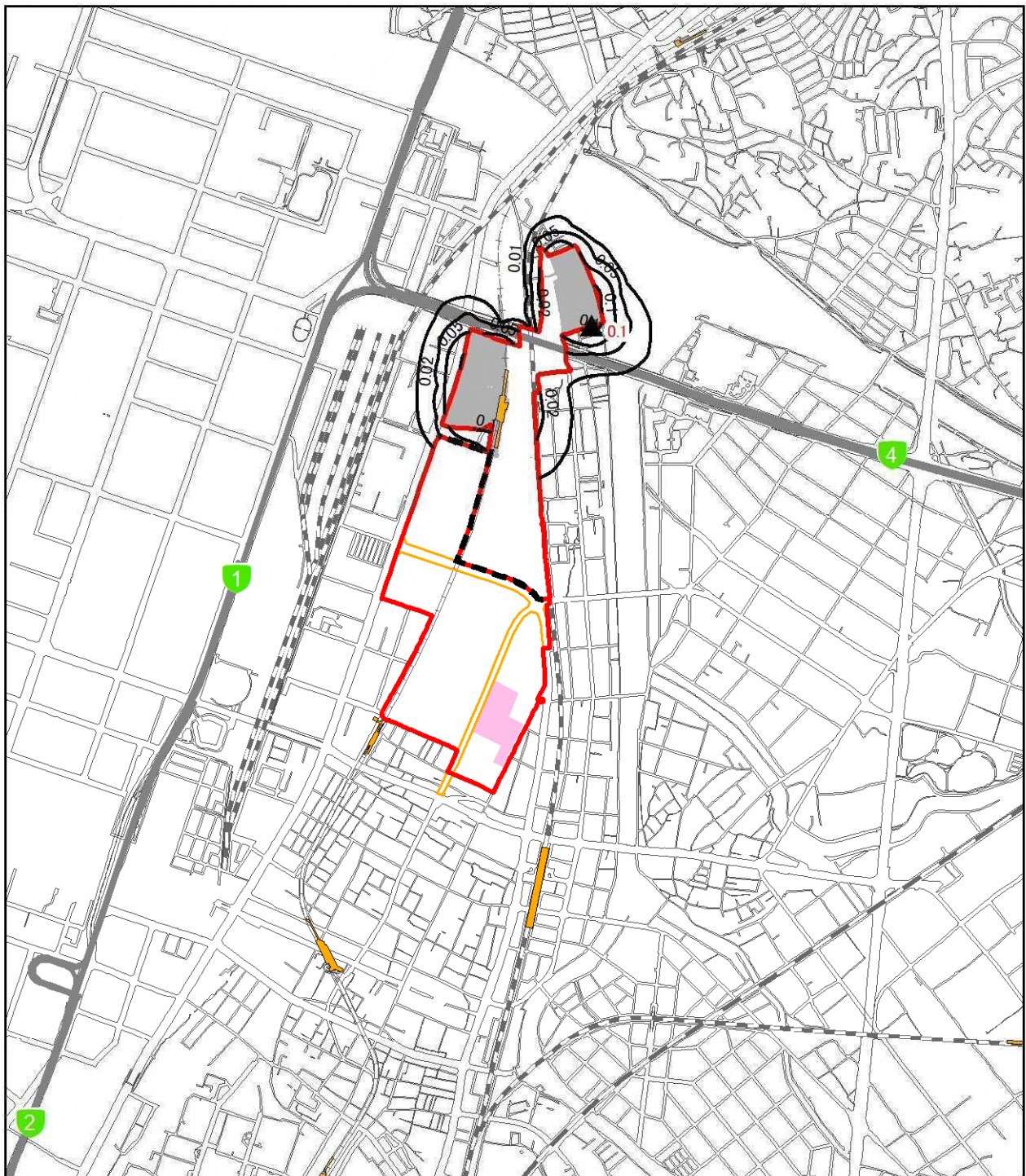
凡例

- | | |
|---|--|
| 事業実施区域 | 工区割り |
| 北エリア・南エリア境界 | 北5工区 |
| 福岡都市高速 | 近代建築物活用ゾーン |
| 都市計画道路(関連事業) | 施工区域 |
| 駅 | 2025年度 |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |



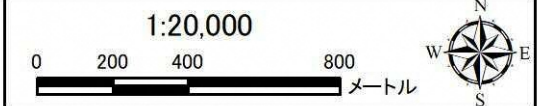
▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 — 2025年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
 バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(15) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2025年度



凡 例

- | | |
|--------------|------------|
| 事業実施区域 | 近代建築物活用ゾーン |
| 北エリア・南エリア境界 | 施工区域 |
| 福岡都市高速 | 2026 年度 |
| 都市計画道路(関連事業) | |
| 駅 | |
| JR | |
| 新幹線 | |
| 私鉄 | |
| 地下鉄 | |



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
 — 2026 年度浮遊粒子状物質濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。
 (※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$)
 バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-8(16) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果(年平均値):2026 年度